

東奥日報

2019年(平成31年)3月28日(木曜日) (20)

浪岡地区の特色を図柄に生かした「ご当地包装紙A(手前)とB



フクロウ、リンゴなど図柄に

「ご当地包装紙」 浪岡らしさ満載

青森

リンゴや浪岡城跡など、青森市浪岡地区の特色を図柄に生かしたオリジナルの「ご当地包装紙」が完成し、27日から同地区23店舗での使用が始まった。(本間善幸)

包装紙Aは「優美な自然・文化 水と山のある暮らし」をコンセプトに浪岡城跡、同城跡の桜、北畠氏家紋、フクロウなどを図柄にした。Bのコンセプトは「クロスカルチャー 多様な文化・創造物」。リンゴを中心にリンゴの葉と英字の組み合わせや、イラストしたリンゴを花びらのように配置したほか、「中世の館」のゆるキャラ「バサラくん」も活用した。

2種類用意 地区23店で使用開始

昨年9月のワークショップに参加した関係者約20人の意見を基に、八戸工業大学感性デザイン学部の横溝賢准教授の指導の下、同学部2年の稲葉航生さんと香澤希美香さんがデザイン原案を担当した。10月に浪岡城跡で開かれたスポーツ鬼ごっこ合戦の参加者の投票結果に加え、浪岡商工会会員から出された意見も図柄に反映させた。事業を担当する市教育委員会文化財課の児玉大成主幹は「Aは文化財を通じた浪岡のPRにぴったり。Bは名産品やバサラくんをう

まく配置し、見て楽しくなる。観光客や地元の人が手に取り、浪岡にはこんな物があったのかと感じてほしい」と期待を込めた。包装紙はA、B各1200枚を用意。同地区の菓子店「富士見堂」の後藤みよ子さんの60は「浪岡の良さをうまく出したデザイン。周囲の評判も上々」と話した。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」